

■北白川宮能久親王 皇族軍人。戊辰戦争で朝敵になるも、維新後、台湾出征で不運の死をとげ、祭神に。最後の輪王寺宮。
きたしらかわのみやよしひさ
.....1847= 京都で、伏見宮邦家親王の第9王子に生まれる。生母は堀内信子。幼名は満宮。
.....1848= 1歳：青蓮院門跡となる。故仁孝天皇の猶子となり、孝明天皇の義弟、明治天皇の義理の叔父に当たる。

万次郎帰国・1852= 5歳：梶井門跡となる。
ペリー来航・1853= 6歳：

松下村塾・・1856= 9歳：

五ヶ国条約・1858=11歳：有栖川宮熾仁親王の弟の輪王寺宮慈性入道親王の附弟となり、親王宣下を受け、能久の諱名を賜る。兄の青蓮院宮尊融入道親王(後の久邇宮朝彦親王)を戒師として得度し、公現の法諱を称する。

安政の大獄・1859=12歳：江戸に下向。
桜田門外変・1860=13歳：二品に叙される。

禁門の変・・1864=17歳：一品に叙される。
薩摩藩士密航1865=18歳：

大政奉還・・1867=20歳：江戸に下って上野の寛永寺に入り、慈性入道親王の隠退に伴って、寛永寺貫主・日光輪王寺門跡を相続。歴代門主と同じく“輪王寺宮”と呼ばれる。

明治維新・・1868=21歳：*戊辰戦争に際しては、前將軍徳川慶喜の依頼を受けて、駿河まで東下した東征大總督有栖川宮熾仁親王の宮に参伺、慶喜の助命と東征中止の嘆願を行うも一蹴されたため、寛永寺へ戻ると、彰義隊に擁立されて上野戦争に巻き込まれ、敗北により寛永寺を脱出、羽田沖に停泊していた榎本武揚率いる幕府海軍の手引きで長鯨丸へ乗り込み東北に逃避、会津、米沢を経て、仙台藩に身を寄せ、奥羽越列藩同盟の盟主に擁立される。“東武皇帝”として即位、“大政元年”に改元し、「日光宮令旨」を発するが、仙台藩とともに、新政府軍に降伏し、官軍に護送され、京都伏見宮家預けの謹慎となり、仁孝天皇猶子と親王の身分も解かれる。

戊辰戦争終・1869=22歳：*特旨を以て赦され、
初の日刊新聞1870=23歳：伏見宮に復帰。明治天皇の命により還俗し、幼名の伏見満宮で呼ばれる。下向を命じられ、_因縁の有栖川宮熾仁親王の邸に同居。海外留学を奏請して許され、“能久”と復名して、横浜港を出航、

薩藩置県・・1871=24歳：アメリカのワシントンを経て、_プロイセンのベルリンに到着。
学問のすすめ1872=25歳：留学中ながら、三品に叙され、_早世した弟の北白川宮智成親王の遺言により北白川宮家を相続し、一代皇族に列され、太政官より“能久”への改名も許可される。ドイツ語を習得、プロイセン軍で訓練を受け、

明治6年政変 1873=26歳：
佐賀の乱・・1874=27歳：陸軍少佐、
初の民間工場1875=28歳：_プロイセン国参謀大学校に入校して、軍事を学ぶうち、
三つの反乱・1876=29歳：_ドイツの貴族の未亡人ベルタと婚約、
西南戦争・・1877=30歳：*明治政府に対し結婚の許可を申し出るが、政府は難色を示して帰国を命じられ、岩倉具視らの説得で婚約を破棄、
またも京都で謹慎することになる。まもなく、謹慎解除されて、陸軍で職務に励み、

大久保暗殺・1878=31歳：_特旨を以て、仁孝天皇猶子および親王に復帰、勲一等に叙され、旭日大綬章を授けられる。
琉球処分・・1879=32歳：陸軍歩兵中佐。_東京地学協会会長、
.....1880=33歳：二品に叙される。

明治14年政変1881=34歳：陸軍大佐。国策で創立された_独逸学協会の初代総裁となり、

岩倉具視没・1883=36歳：_独逸学協会学校(独協学園)設立に尽力、

秩父事件・・1884=37歳：陸軍少将、

帝国大学始・1886=39歳：島津富子と結婚。_大勲位菊花大綬章。

帝国憲法発布1889=42歳：大日本帝国憲法発布記念章。_ドイツ帝国赤鷲大綬章。

大本教・・・1892=45歳：陸軍中將に昇進する一方で、創設された_大日本農会の初代総裁、

郡司千島探検1893=46歳：第4師団長となる。

日清戦争始・1895=47歳：*近衛師団長になり、日清戦争に出征し、大連に到着するも、既に日清間の講和が進んでおり、実戦することなく終戦。旅順から、日本に割譲された台湾接収に向かい、台湾に上陸して南進するうち、現地でマラリアに罹り、台湾全土平定直前に台南で没した。秘匿されたまま遺体は日本に運ばれ、陸軍大将に昇進が発表され、菊花章頸飾・功三級金鸚勲章後に、薨去が告示されて国葬に付された。
皇族としては初めての外地における殉職者として、豊島岡墓地に葬られ、後に台湾各地に創建された神社のほとんどで主祭神とされたが、敗戦後に全て破却されたため、現在は靖国神社にて祀られている。